



**尾崎大介**  
高橋都彦  
狛江市長

**尾崎都議**▶まず、狛江市の中学校において給食事業が中断されたことについて、私自身も保護者の方々から多く声をいただいており、早急な対策が必要と考えます。市長はどのような認識をお持ちになっているのかお聞かせください。

**高橋市長**▶早めに手は打ったので冷静に保護者の方々には受け止められていると思いますが、一日も早く円滑に給食が提供できるよう努めています。

**尾崎都議**▶この問題に関しては日々の保護者の負担にもつながってきますので、迅速な対応を求める。次に待機児童問題に関してお聞きします。このテーマは、一つの自治体で取り組むのではなく、都政全体で取り組むべき課題であると認識しています。私は具体的取り組みの一つとして、都議会において今年度からスタートするスマート保育の推進を提言していますが、狛江市では導入に当たりどのような問題点などが考えられますか。

**高橋市長**▶制度としてはかなり良いものと認識していますが、認証保育所との基準に合うような形が必要であると聞いています。待機児童解消に向けた対応を進めていくためにも尾崎さんの方で積極的に東京都への働きかけをお願いいたします。

**尾崎都議**▶私もこのスマート保育事業は画期的であると思っておりますので、市と都が連携して導入できるような環境作りに努めています。次に沿道の皆さんからも要望が非常に多い水道道路の整



備促進に関して伺います。事故が多発しているこの道路については、一日も早く抜本的な整備がなされ、近隣の方々が安心して生活ができるよう都へ伝えていますが、現在の状況をお聞かせください。

**高橋市長**▶これまで16年間動きがなかった部分を一步でも進め行なう。この地域では非常に危険とされている道路の整備に関しては都との連携が不可欠です。議会においても尾崎さんにしっかりと取り上げていただきたいと思います。

**尾崎都議**▶最後に、市長も公約として掲げられていた水道局用地の整備に関してお伺いします。この広大な水道局用地の整備については、まさに市と都が連携して事業を進める必要があると考えています。地域に残る有効な資源としての都有地でありますので、例えば防災機能を持つ公園としていくなど積極的な活用がされるよう尽力していくが、市長のお考えをお聞かせください。

**高橋市長**▶昭和17年に都市計画決定された和泉多摩川緑地をどうするか、ようやく現地調査が終了しました。これまでそうした手続きが行われていなかつたので、手順を間違えず動きを進めて行かなければと思います。こちらに関しましても、都との連携にぜひお力を貸してください。

**現職都議として、地元の課題解決に向け全力を尽くします!!**



**尾崎大介**  
長友貴樹  
調布市長

**尾崎都議**▶まず、高齢者の生活安全の確保に向けてお伺いします。これから本格的な高齢社会を迎えるにあたり、社会を担っていく我々の世代が、まさに責任を持って取り組んでいかなければならない重要な課題の一つに高齢者の方々の見守りがあると思います。緊急通報システムの導入、家具転倒防止器具取付、火災警報器設置をはじめ、調布市としてさまざまな取り組みが実施されておりますが、特に東京都との連携が進められる施策などについてお聞かせください。

**長友市長**▶高齢者の見守りは、緊急通報システムだけではなく、いろいろなメニューが必要であり、補助メニューを固定化するのではなく、各市が実施しているさまざまな施策に柔軟に対応した補助を求めます。また東京都による「見守りの手引き」の早急な作成を要望します。尾崎都議には現場のかゆいところに手が届く要望を都へつないでいただくことを期待しております。

**尾崎都議**▶次に、東京都も事業主体として進めている京王線連続立体交差事業関連のまちづくりについてお伺いします。私も地元の都議として、駅前・線路跡地整備に関しては、市と都が連携を持った取り組みが必要と考えますが、どのような要望をお持ちですか。

**長友市長**▶ゆとりある都市空間の形成、産業面の振興も兼ね備え、まち全体の活力が向上するよう引き続き都との連携が図られなければなりません。尾崎さんは地元自治体の現状に関してもつないでいただけるよう期待いたします。



**尾崎都議**▶最後に、都内の数自治体において異議申し立ての事態まで起こっている待機児童問題に関しては、私も2人の子どもを持つ親として、非常に切実な課題であると考えています。私は、定員が6人～19人という小規模保育所である、スマート保育の推進を議会の中で求めています。この間の長友市長の講じられている手立てについては大きく評価しておりますが、調布市の現状についてお聞かせください。

**長友市長**▶保育園待機児童対策に関しては調布市政の最重要課題の一つとしてこれまで予算を重点的に配分して取り組んできました。過去10年間を振り返りますと、平成14年度から23年度で合計1,284人の定員拡大を実施してきました。また、平成24年度待機児童数180人に対し、あらゆる手段を講じ、過去最高となる469人の定員拡大を行いました。しかしながら平成25年度当初でも待機児童が発生してしまう状況となっています。



**尾崎都議**▶根本的な待機児童解消は、保育園の増設だけでなく、現在の保育士不足の問題も同時進行で進めていく必要があります。さらに、地域の特性に向き合った対策も不可欠であると言えます。市長が都に対して特に連携を求められている点についてお聞かせください。

**長友市長**▶現在都ではマンション併設型保育所整備や、定期借地権の設定に必要な一時金の補助などが実施されています。さらに調布市を含む都市部の特性に鑑み、一定期間の限定であっても都有地を有効に活用できる仕組みについても働きかけをお願いします。

**尾崎大介**  
都議  
×  
市長  
対  
談